研修便り

高知市教育研究所教職員研修班
平成25年1月17日発行　No.16

第4回　あったか学級経営・授業充実講座

平成24年11月27日（火）実施

目的：児童・生徒を取り巻く状況を把握して，さまざまな視点から学級経営を充実するための方策を学ぶ。

教育研究所の３つの班「教育相談班」「特別支援教育班」「教職員研修班」がそれぞれの持ち味を生かし，コラボレーションして行っている４回連続の希望研修の最終回でした。

「あったか学級」実践交流　　高知市教育研究所 教育相談班

ねらい
- ○ 日ごろの学級経営・授業経営をふりかえる。
- ○ 実践を交流し，明日へのヒントとする。

1　はじめに　「私は，私が好きです。なぜならば･･･」

① 自分の好きなところを10個あげ，お互いに自己紹介をし合う。
② お互いに毎日子どもに接しているなかで大事にしていることをあげる。

ルール
- 話し手…とにかく2分間話す。まとめようとしなくてよい。
- 聞き手…相手を見る。相槌をうつ。真剣に聞く。

教師はすぐに「思い」を聞きたがるが，その返答は意外に難しい。だが，聞き手（聞き方）によって話し手の気持ちは大きく変わる。

もっと詳しく聞いてみたい！

質問してみたい。

あったかプログラム P.148　リレーション作り

No.	題材名	学年
49	私は私が好きです。なぜならば…	小6～中3

ねらい	自分の肯定的な側面に目を向けて，それを各自，表明することを通し，温かい学級の雰囲気づくりと肯定的な人間関係をつくる。
時間・形態	【時間】４５～５０分　【形態】４～６人のグループ　【場所】教室
準備物	・ ふり返りシート（共通用）
参考文献	「エンカウンターで学級が変わる中学校編」　監修：國分康孝　編集：片野智治　（図書文化　p164） 「構成的グループエンカウンター事典」　総監修：國分康孝・國分久子　（図書文化　p382）

学習の流れ	留意点
1　本時の ○活動と ☆めあての確認 ○ 自分がいいなと思っているところをアピールする。	・ 親しいものばかりが集まらないように４～６人のグループをつくる。（顔番に

2　振り返り　～学級経営・授業実践交流～

① 学級経営･授業経営で実践していることは何か思い返す。
② 学級経営･授業経営での悩みを伝える。

3　これは使える学級経営・授業実践交流

① 司会者･記録者を決める　② 個人発表
③ 質疑応答　④ Goodな実践を用紙に記入

Goodな実践例
- よい人，よい所を全体に返し，モデルにする。
- 連絡帳など，白紙の子にも必ずコメントを返す。
- 放課後，教室をきれい掃除する。
- 授業の始めと終わり，作業途中でも手を止めてしっかりと挨拶を行う。
- 何か1つでもいいから小さいルールを決めて守れたら評価する。
- 帰りの会で「ありがとうコーナー」に取り組む。
- 授業評価はその都度，目に見えるように，リアルタイムで行う。

自分では当たり前だと思って行っていることも，他人からしてみれば，実は素晴らしい実践であることがたくさんあった。

4　全グループのシェアリング

・ 学級経営･授業経営について新たな視点から，交流したことを紹介する。

5　おわりに　「私は，あなたが好きです。なぜならば･･･」

・ グループ全員から「好きのシャワー」が降り注がれる。

〈受講者の感想〉
- いつものことだが，全体の時間があと30分あればいいなと思った。気軽に参加して，研修ができる機会が，来年度もあればいいと思う。また，若い先生方がたくさん来られたらいいと思う。
- 話をする，話を聴くということだけであっても，聴き方1つで話す側は話しやすかった。また，自分も話を聴く時に意識したい。
- それぞれの学校で，日々実践されている先生方と，日頃の実践交流や悩みの相談など，充実した時間になった。これからの励みにもなった。
- 小学校の先生方はきめ細かい指導をされていることがよく分かり，参考になった。「ありがとうコーナー」は学年にも提案してみたい。

特別な支援が必要な児童・生徒への具体的な手立て

「できる状況づくり」

高知市教育研究所
特別支援教育班

「できる状況づくり」とは，
子どもが主体となって学習に取り組める環境を整えていくこと

□　事前の対応を工夫しましょう。
（例）・　事前に予定を示す　・　視覚的に示す　・　要求レベルを下げる
・　興味付けをする　・　約束をする　・　選択肢を提示し，子どもが選択する

□　まちがいはその場で直しましょう。
（その場で静止し，正しい行動を教えて修正する。）

□　子どもを上手に叱りましょう。
（メリハリをつけ，強く短く叱る。懲らしめるのではなく，より適切な行動へ導くために叱る。
プライドを傷つけないようにする。）

□　叱るだけでなく，何をすればよいかを具体的に示しましょう。
（上手くやれたら心からほめて認める。）

□　問題となる行動を<u>しないこと</u>をほめましょう。
（例えば，問題行動が起こりやすい場面で短い時間に区切って，その間，問題行動がなければ
ほめるようにする。）

□　問題行動に代わる行動を教えましょう。
（そのためには，問題行動の意味を知ることが必要。）

「効果の法則」
子どもはほめられると満足し，満足したことは習慣化します。
叱ったり，なじったりせず，ていねいに教え，少しでもできたらほめることが効果的です。

こんな場面では・・・	具体的な支援の仕方
苦手な課題，新しい課題に取り組む場面	アレンジをして取り組みやすい課題にする。励ましながら取り組むようにする。
気持ちの切り替えが難しい場面	他の児童・生徒よりも事前に声をかけ，少しずつ気持ちの準備をしやすくする。
何をすべきか分からない場面	何をすべきか具体的に指示をする。視覚的なヒントを添えるようにする。
早く作業が終わってしまい，何もすることがない場面	次の課題や作業を事前に準備しておく。
勝ち負けが絡んでくる場面	ゲームや試合の前に，負けても大丈夫であると伝える。
失敗しそうな場面	結果より努力を認める。他に活躍できる場面をつくる。

大切にしたいこと

○　誰にも得意なこと，苦手なことがあります。

「達成感」が意欲を生みます。できることから始めて，
達成感が得られるようスモールステップで援助しながら，
挑戦しようとする自発的な気持ちを育てることが大切です。

○　子どもは誰でも認めて欲しいと思っています。

子どもにとって自分の価値を分かってくれる教師の存在，
「意義ある他人」としての教師のまなざしが大切です。

〈受講者の感想〉

・　自閉症傾向，ADHD傾向の子が混在している学級であるため，今回具体的な手立ての方法が知れてよかったです。声のボリューム，子どもたちに対しての注意の仕方・ほめ方は，良いと思ってしたことが悪いことだったりと反省する部分もあり，明日からでも改善していきたいです。

・　分かりやすい内容で，学校へ帰って伝えていきたいと思います。学校全体の共通認識を高めていくことが大切だということを痛感しています。

ご意見・ご感想等を高知市教育研究所 教職員研修班までお寄せください。